

進路指導について（高等部学部懇談会より）

日時 令和6年4月27日（土）9：00～9：15
場所 本校体育館

学習参観、PTA総会、後援会総会が開かれた機会に、短い時間でしたが、高等部学部懇談会を行いました。進路指導部では、情報提供をしました。以下は、その内容です。

○「令和6年度進路指導計画について」

- ・現時点では、計画の通り行う予定

○「就業体験について」

就業体験期間は、

3年生は、6／3（月）～6／21（金）の15日間、

2年生は、6／10（月）～6／21（金）の10日間、

11／5（火）～11／15（金）の9日間、

1年生は11／6（水）～11／12（火）の5日間を予定しています。

今年度から1年生の企業就労希望者に、6／10（月）～6／14（金）の5日間、校内で就業体験を実施します。この体験を通して、11月の就業体験に向けて、コミュニケーション力や作業能力の実態把握をするとともに、生徒が働くということの実際を知る機会にしたいと思っています。

- ・就業体験先は、本人、保護者の方の希望、居住地から通いやすいところなどを考慮し、就業体験受け入れ可能な事業所を開拓しています。事業所が平日に休業の場合は、登校し、作業学習などを行い、校内就業体験という形をとっています。
- ・1，2年生の就業体験では、いろいろな業種を体験し、働くための態度や姿勢、本人の適性などを事業所から評価してもらいます。
- ・3年生は、1，2年次の体験を踏まえて、就労を前提とした体験になります。事業所からの評価によっては、9月以降に見極めの就業体験を実施することもあります。

○「生活体験について」

- ・3年生は、6／3（月）～6／21（金）の期間、2年生は11／5（火）～11／15（金）の期間に、1～3か所、それぞれ1～2日間程度実施しています。放課後等デイサービスで普段から利用している事業所でも、食事や日中活動の様子、支援方法などを共通理解するために、希望があれば実施しています。

○「就労に関する進路研修会」

- ・中小企業家同友会主催の企業見学・体験、富山労働局主催の特別支援学校就労支援セミナーが予定されています。社会自立、職業自立に向けた研修会であり、参加は任意ですが、日時が近くなれば、案内プリントを配付します。

○「アフターケアについて」

- ・卒業後、3年間は卒業生のアフターケアを行っています。前年度卒業生については、電話での状況確認や事業所への訪問、卒業2年目、3年目の生徒については、電話での状況確認を行い、場合によっては、訪問して支援しています。また、富山障害者就業・生活支援センターなどの関係機関とも連携しています。

- 「卒業後のよりよい社会生活のためにご家庭で協力していただきたいことについて」
- ・学校では、ワークトレーニングや作業学習、専門教科を中心に、社会自立、職業自立の意識を高める取組を授業で進めています。就労を意識した、働くための準備として家庭でも実践していただきたいことを、以下に挙げます。

① 基本的な生活習慣の確立

「身の回りの自立、自分のことは自分です」ということです。着替えや身だしなみを整えること、洗顔、歯磨きなどは、多少時間が掛かっても本人が一人でできることで、自発性が生まれ、生活リズムの形成にもなります。朝起きてから、家を出るまでの時間を十分にとって、本人のペースを尊重しながら根気よく繰り返すことが大切です。

② 家事に参加し、家庭での役割を果たすこと

家庭での役割を決め、最初から最後までやり遂げることです。はじめは、完全にできなくても、「手伝ってくれて助かった」「ありがとう」という言葉を伝えることで、子どもは役割を果たそうとし、達成感、責任感、持続力を養うこととなります。

③ 働くことに耐えることのできる体力作り

事業所からは、「体力はありますか」「立ち仕事はできますか」とよく聞かれます。3食をきちんと食べ、睡眠、適度な運動を心掛け、規則正しい生活を送ることは、健康管理には不可欠です。休まないで通勤することは、企業が求める人物像の大前提です。

④ 「待つこと」や「我慢すること」を学ぶ経験

事業所には、一定のルールや約束事を守らなければ、就労することはできません。駄々をこねたり、大声を出したり、自分勝手なやり方で物事に取り組んだりすることは、一緒に働いている周りの人に迷惑を掛けることとなります。自分の感情をコントロールする機会を日常の中で作るよう心掛けましょう。

⑤ 言葉で表現すること、コミュニケーションをとること

挨拶、返事、報告、連絡、相談は、日常生活で行っていれば、意識しなくても自然とできることです。事業所の方からは、「挨拶ができない」「返事ができない」「分からなくても“はい”と返事をする」「分からないことを質問せず、自分勝手な判断で行動する」といった苦情を聞くことがあります。普段から会話を通して、それぞれの思いや考えを聞くとともに、場に応じた言葉遣いで話したり、自分の気持ちを伝えたりする機会をもつようにしましょう。

以上5点については、学校でも教育活動全体を通じて、意識して指導していますが、ご家庭の協力も必要です。生徒一人一人が、よりよい進路選択をできるよう支援していきたいと考えています。